

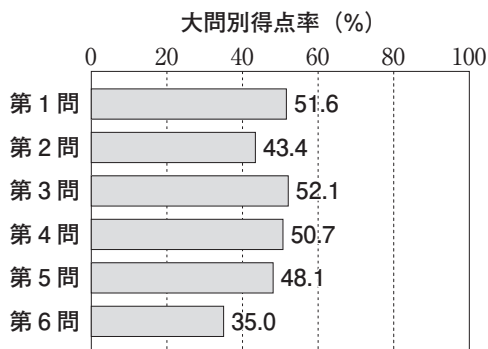
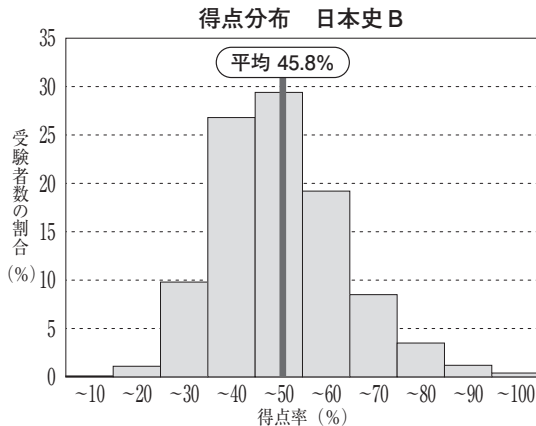
日本史B

「総合力」で得点力の向上をはかっていこう！

I. 全体講評

2017年度がスタートして、早いもので1か月が経過した。学習のペースをつかむことができただろうか。自分のペースで地に足をつけて学習にあたっていこう。

第2回4月センター試験本番レベル模試の平均点は45.8点と前回(2月)のセンター試験本番レベル模試の平均点(45.1点)とほぼ横ばいであった。得点率が5割を超えた大問が第1問、第3問、第4問と3題にのぼったが、6割台には程遠く、誤文や誤答に含まれる歴史用語に惑わされている様子がかえる。しかし、視覚資料や地図・図版・グラフを提示したセンター本試・日本史B特有の問題形式には、対応力もあり及第点を与えることができるだろう。苦手分野を克服し、「総合力」を養うこと



で得点力の向上をはかっていこう。

II. 大問別分析

第1問 住居・建築の歴史

配点の大きい第1問を得点源とすることで、幸先のよいスタートを切ろう！

住居・建築の歴史をテーマとする「学生のレポート」を問題文とした。第1問の配点は2016年度に16点に変更され、2017年度も踏襲された。配点が高いだけに、テーマ史学習の重要性を認識していこう。

第1問の得点率は51.6%と5割は確保できた。原始から戦後まで時代をまたぐ問題であったことから、まだ未習箇所であると考えられる戦後経済を主題とした問6の正答率が、11.1%と大きく崩れた。また、中世・近世の主要都市を地図から選択する問4の正答率も38.5%と、誤答①を選択した受験者(53.1%)を大きく下回った。解答解説を熟読し、欠落していた知識をしっかりと点検しよう。

第2問 古代の政治・文化

反復学習を通じて、史実を「深く」理解することを心がけよう！

古代の政治・文化について、「唐」との対外関係にスポットをあて基本的な問題を中心に出題した。古代国家の形成過程で唐からもたらされた制度・文化がどのような影響を与えたのかを分析してみよう。

第2問の得点率は43.4%といまひとつ伸び悩んだ。5割を超えたのが問1(83.2%)と問2(53.9%)の2題のみで、あとは2割～3割台の正答率に沈んだ。問5・問6はとくに基本問題であったが、正答と誤答を選択した受験者が拮抗していた。「深く」理解することを心がけ、正確な知識を習得していこう。

第3問 中世の政治・社会

パターン化された史料読解問題や視覚資料を使用した問題形式に慣れよう！

中世の対外関係・政治・社会・文化をテーマに総合的な問題とした。センター本試・日本史Bでは、史料読解や視覚資料を提示した問題が必ず出題される。特殊といえるだけに、早期にこのパターンに慣れていこう。

第3問の得点率は、52.1%と第1問と同水準であった。視覚教材を提示した問2が87.6%、史料読解をテーマとした問6は62.3%と高い正答率を確保したことから、しっかり対応できていたといえよう。一方、時代整序問題であった問1は36.5%と4割にも満たなかった。高得点を確保するためには総合的な実力をつける必要があることを自覚してほしい。

第4問 近世の鉱山

知識量が多い近世の社会経済史に対する苦手意識を払拭しよう！

近世の鉱山をテーマとして、社会経済史を中心に出題した。経済が飛躍的に発展した近世では、それに比例してやるべき内容が多い。前時代との差異に着目しながら網羅性を重視した学習を遂行しよう。

第4問の得点率は50.7%と辛うじて5割台は確保できた。正答率が高くなる傾向にある空欄補充形式の問1でさえ、39.6%にとどまったことから、社会経済史に対する受験者の苦手意識が伝わってくる。江戸時代の貨幣制度や、経世論、農書といった分野は頻出事項であるだけに、綿密な学習計画を立てて対応しよう。

第5問 五箇条の誓文

年号暗記より、「流れ」のなかで時系列を正しく把握する習慣をつけていこう！

五箇条の誓文を取り上げ、幕末・明治期の基本的知識を問うた。第5問は小問数こそ少ないが、グラフなどの数値を読み取る問題が出題された場合、時間を要することも想定できる。どんな問題でも対応できる柔軟性を身につけていこう。

第5問の得点率は48.1%と、5割未満にとどまった。問2の正答率は37.2%と伸び悩んだが、誤答②を選択した受験者が53.2%と大きく上回った。誤文「d」を正文として判断した受験者が多かつ

た。短期間にめまぐるしく展開する幕末史は、「時系列」に関して問う傾向が強い。「流れ」のなかで、史実の時系列を把握する習慣をつけていこう。

第6問 田中角栄

多くの時間を費やす近現代史は早めに対策を講じていこう！

2016年に話題となった田中角栄に焦点をあてた問題とした。1970年代の政治・外交について田中角栄が関連した重大な出来事はかなりの数にのぼる。田中角栄の人生を通じ、この時期の史実の理解を深めていこう。

第6問の得点率は35.0%と、大問6題のなかでは最も低い数値であった。問1・問2の正答率はそれぞれ53.4%、52.2%と何とかもちこたえていたが、それ以降は軒並み低調で、なかでも近代の文学史に関する問4は19.3%に終わった。未習分野への対策は前回に続き課題が残った。課題の克服を今後の学習のテーマにしてほしい。

Ⅲ. 学習アドバイス**◆「毎日」学習しよう**

日本史は「毎日」学習することで、史実に関する感性も研ぎ澄まされていく。短時間でもかまわないので、普段使用している教材を必ず開く習慣をつけていこう。

◆「深く」理解しよう

断片的な歴史用語の暗記作業では、センター本試・日本史Bの出題形式には対応できないといってよい。「深く」理解する学習を通じて、歴史用語は自然と脳裏に焼き付いてくるはずだ。学習法に関して、発想の転換を求めたい。

一簡単ではないこともあるが、君にはできる。

世界は君のものなのだからー

ペーブ・ルース